

コーポレートベンチャーキャピタルファンド  
「阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合」が  
メタバースのプラットフォーム「XR CLOUD」を展開する  
「monoAI technology」に出資しました



阪急阪神ホールディングスが2021年4月に設立したコーポレートベンチャーキャピタルファンド「阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合（以下「本ファンド」）」が、「monoAI technology株式会社（モノアイテクノロジー）」に出資しましたので、お知らせします。

monoAI technology社は、長年オンラインゲームを制作する中で培ってきた開発力に強みを有しており、業界随一の性能を誇る自社開発のゲームエンジンを活用した、メタバース（インターネット上の仮想空間）のプラットフォーム「XR CLOUD」を展開しています。「XR CLOUD」は、最大10万人が同時に接続することができ、さまざまなイベントの開催に対応しています。

当社では、本年5月に発表した「阪急阪神DXプロジェクト」に基づき、さまざまな取組を推し進めていますが、その一つとしてデジタルの利便性を訴求すべくメタバースを展開していくこととしており、阪神甲子園球場や大阪・梅田の街をメタバースに忠実に再現した「デジタル甲子園」や「JM梅田（Japan Multiverse 梅田）」において、展示会や音楽祭を開催しています。monoAI technology社とは、これらのイベントにおいても協業・共創を行っておりますが、今後は、同社のXR（クロスリアリティ）技術等をより活用しながら、デジタル領域での新たな付加価値の創出に取り組むことといたします。

阪急阪神ホールディングスグループでは、これからも本ファンドからの出資等を通じて、スタートアップ企業をはじめとする外部の優れた知見や先端技術を取り入れ、当社グループとの事業シナジーの創出や新しい事業の創造を推進してまいります。

## ■monoAI technology 株式会社の概要

所在地	神戸市中央区京町 78 三宮京町ビル 3 階 A 号室
代表者	代表取締役 本城 嘉太郎
設立	2013 年 1 月
事業内容	XR 事業、ゲーム開発事業、AIQA 事業 (AI を活用したソフトウェアの品質管理サービス)
特徴	<p>メタバースを構築するプラットフォーム「XR CLOUD」は、最大10万人が同時に接続することが可能です。iOS・Android・Windows・MacOSに対応しており、バーチャルイベントをマルチデバイス環境で展開することができます。</p> <p>また、バーチャルイベントの企画・制作・開発及び運営サービスでは、デジタル甲子園やJM梅田でのイベントのような「オーダーメイド型」のほか、「XR CLOUD」とテンプレートを活用することにより、会社説明会・入社式・新商品発表会等で利用できる式典パックなど、各業界でニーズの高いイベントを短期間・低コストでカスタマイズして開催することができます。「パッケージ型」の2つのサービスラインを提供しています。</p>

## ■阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合の概要

ファンド名称	阪急阪神イノベーションパートナーズ投資事業有限責任組合
ファンド規模	30 億円
設立日	2021 年 4 月 1 日
運用期間	10 年
運営会社	SBI インベストメント株式会社
主な投資領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>DX の推進</u> コンテンツ (エンタテインメント映像、e スポーツ など) コミュニケーション (オンライン会議システム、ライブ配信 など) コミュニティ (オンラインサロン、オンラインカンファレンス など) マーケティング (広告、媒体、ソーシャルメディア、データ収集・解析・活用 など) EC (EC サイト開発、オンライン決済、物流 など)</li> <li>・ <u>次世代モビリティ (MaaS)</u></li> <li>・ <u>ヘルスケア</u></li> <li>・ <u>シニア向けサービス</u></li> <li>・ <u>農業関連事業</u></li> </ul> など

## 阪急阪神ホールディングス株式会社

## グループ開発室長 奥田 雅英 (おくだ まさひで)

阪急阪神ホールディングスグループでは、現在、「阪急阪神 DX プロジェクト」を推進しています。

その中で、お客様が「デジタル時代の利便性」を最大限享受できる取組の一つとして、これまで monoAI technology 社と協働して「デジタル甲子園」や「JM 梅田ミュージックフェス」などを開催してきました。

これからも、グループの「施設」や「街 (沿線)」を活かした取組を拡大していきたいと考えており、同社を心強いパートナーとして、メタバースのさらなる可能性を追求してまいります。

【ニュースリリース配付先】青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ

以上